



2006年

1月

新年あけまして
おめでとうございませす



安心の笑顔

目次

特集 「西淀川・公害と環境資料館」オープン

「資料室」から「資料館」へ 夢と現実のはざまから	芝村 篤樹	2
資料館オープンに向けてダッシュ!		4
シンポジウム皆済のご案内		5
大阪人権博物館リニューアルオープン		6
地域資料シンポ拡大研究会やりました		7

西淀川公害裁判における企業和解の意義(2)	豊田 誠	8
新米パパのイギリス滞在記 イギリス保育園事情	大島 堅一	8
リレーエッセー 刺客	福本 富男	10
忙中一筆 西淀川高校の生徒たちと...	辻 幸二郎	12

呼吸器疾患を抱えた高齢者の認定患者さんが、安全に楽しく水中での運動を行うことができる。「水中リラックス教室」。公害保健福祉事業として自治体での取組みを広げるには、指導者の養成が欠かせません。このほど開催した「教室」の指導者を育成する講習会には、子どもから高齢者まで、幅広い年齢層を対象に水泳指導を実践している健康運動指導士ら60人が受講しました。

「水の中では、何よりも安心して身を預けようと信頼する気持ちが大仕事」 西淀川公害患者と家族の会事務局長・永野千代子さんの体験談を皮切りに、喘息疾患の特徴、治療緊急時の対応や配慮、水中運動の実際のプログラム等について講義・実習しました。

(2005年11月22日、大阪府門真市のなみはやドームで)

特集

「西淀川・公害と環境資料館」オープン

あおぞら財団が1996年の設立後すぐに開設した「西淀川地域資料室」。これまで多くの人たちに支えられ、西淀川大気汚染公害の住民運動や裁判資料を中心とする公害・環境問題資料の収集や整理をおこなってきました。10年の節目を迎える2006年3月、「西淀川・公害と環境資料館」として再スタートすることになりました。

「資料室」から「資料館」へ

夢と現実のはざまから

芝村 篤樹

国文学研究資料館史料館編『アーカイブズの科学上・下』（二〇〇三年、柏書房）の「はしがき」冒頭に、あおぞら財団の資料事業が紹介されている。わたしが、ここで最初に書くことと思うことも重なる。紙数の都合から、いくぶんか省略するが次の通りである。

資料保存・活用の 代表的事例として紹介

「高度経済成長の時代に各地に『公害』が発生し、社会問題となったことは記憶に新しい。大気汚染に苦しみ、『手渡したいのは青い空』のスロガンのもとに大阪市西淀川区大気汚染裁判を提起した原告が、訴訟和解後の一九九六年に『あおぞら財団』（公害地域再生センター）を設立し、『公害博物館』の設立を目指して、公害問題資料保存・活用事業を行っている」「裁判資料、ポスター、ビラ、公害手帳や医療器具、たすきなど多

種多様な資料があり、それらを体系的に収集・整理し保存・活用するために様々な分野の研究者の協力を得ている。各地の公害や震災の被災地でも資料保存活動が展開されネットワークが形成され始めている」。

アーカイブス研究の大著の冒頭において、あおぞら財団の活動が、新しい資料保存・活用事業の代表的な事例として紹介されているのである。財団の発足後一〇年、その間に営々として続けてきた資料事業が広く知られ、期待されるようになったこと象徴と受け止めたい。今後の事業展開の貴重な資産といえる。

飛躍 「へや」から「やかた」への

これらの資産を土台に、二〇〇六年三月に「西淀川・公害と環境資料館」が発足する。いままでは「資料室」と称してきたのだから、「へや」から「やかた」に変わることになる。

言葉が変わったほどには、活動の規模がそれほど膨らむわけではないだろう。では、「へや」から「やかた」への飛躍の意味は何か。

現在、西淀川の地元の方々、それに専門家・研究者の参加を得て資料館運営懇談会を設け、活動のあり方などについて討議を重ねている。「館」として発足する最も大きな意義は、資料の公開・利用などの活動が社会的に公式なものとなり、アピール力がさらに増すことといえようか。これまででは、どちらかといえば内輪の活動であった。財団の内にあっても、「館」は一定の独自の機構を備え、恒常的な活動を続けることになるだろう。

地域と全国・全世界との 連携の場

何事によらずスタートに際しては、こころざしと夢は大きい方がよい。資料館は、地域情報の発信基地となり、地域の人々がまちづくりを考える場、歴史を組み込んだ環境教育の拠点、日本の公害経験について世界の研究者・専門家が集う場となる。さらには、公害・環境問題資料の全国的ネットワークの拠点となり、地

「西淀川・公害と環境資料館」ができるまで

1991年	西淀川再生プランPart1で西淀川簡易裁判所跡地に「公害資料館」づくりを提案(西淀川公害患者と家族の会)
1993年	西淀川再生プランPart2で西淀川簡易裁判所跡地に「生活史博物館」づくりを提案(西淀川公害患者と家族の会)
1996年	あおぞら財団(財団法人公害地域再生センター)発足 「公害博物館(仮称)基本構想検討委員会」発足(～98年) 「西淀川地域資料室」開室
1997年	西淀川公害訴訟弁護団所蔵資料のデータベース作成開始 合同製鐵高炉保存運動(～98年) 「西淀川の震災展」、「西淀川の土地の変化」、「西淀川のいきもの展」開催 西淀川フィールドミュージアムシンポジウム開催
1998年	公害健康被害補償予防協会委託業務「大気汚染対策に係る被害者・住民運動資料の保存・整理手法に関する調査研究業務」(～00年度)
1999年	「公害問題資料保存研究会」発足(～05年) 「西淀川地域資料室」の別室を増設 「西淀川の産業展」開催
2000年	環境庁文書の保存に関する要請行動(～01年) 「西淀川の戦中・戦後展」開催
2001年	「公害の歴史に学ぶ」シンポジウム開催 小田康徳氏主宰「西淀川地域研究会」発足 公害健康被害補償予防協会委託業務「大気汚染公害問題資料の保存とデジタル・アーカイブ化に関する調査研究業務」(～02年度)、「大気汚染公害問題資料のネットワーク整備のための情報整理と普及に関する業務」(03年度)
2002年	シンポジウム「公害・環境問題資料の保存・活用ネットワークをめざして」開催
2003年	「シンポジウム地域資料の保存と活用を考える」実行委員会発足(実行委員、事務局) 大阪府立西淀川高等学校の余裕教室で「西淀川公害」の常設展示設置(あおぞらプラン)
2004年	「西淀川地域資料室」ホームページリニューアル
2005年	「あおぞら財団資料館運営懇談会」発足 資料館オープン・プレ企画Part1「写真と映像で見る西淀川地域と人びと展」、Part2「夏休みワクワク資料室 大野川緑陰道路であそぼう」開催 「資料館だより」創刊 「大野川緑陰道路今昔ものがたり」パネル巡回展(りそな銀行歌島橋支店、きんき環境館、西淀川図書館)
2006年	資料館オープン記念シンポジウム開催(3月) 「西淀川・公害と環境資料館」開設(3月)、「西淀川地域資料室」改め)

域資料ネットワークの一環としても役割を果たす。要するに資料を仲立ちに、一方では地域との、他方では全国・全世界との連携の場となることが期待される。

「西淀川・公害と環境資料館」は、すでに「貴重な資産」を蓄え、こころざしや夢だけに終わらせない基盤を築いている。けれど、現実が厳しいことも確かである。もともと、財団の資料事業の先に展望したのは、国・公立の「公害博物館」であった。当面その実現が困難なため、財団の

付属施設として発足させることになった面もある。いまや博物館や資料館、文書館などは、財政の悪化や市場万能の風潮のなか、存亡の危機に瀕している。

市民に支えられる「館」へ

これらの文化施設のあり方は、根本的には文化や民主主義の成熟度を表し、それを促すべきものと考えられる。「館」の維持・発展には、環境省や大阪府・市などの協力も不可欠

だが、何よりも必要なのは市民の力である。広範な市民に支えられて歩むことができれば、NPO立の「館」であることのメリットが発揮されるだろう。

「西淀川・公害と環境資料館」は、このような夢と現実のはざまから立ちをする。多くの方々の協働によって、順調な発展を遂げることを期待したい。

(しばむら・あつき：桃山学院大学教授)

資料館オープンに向けてダミシユ！

毎週金曜日開館しています

おそろ財団設立時からの博物館構想を軸にして、西淀川公害にかかわる資料を収集し、保存・整理を行ってきました。所蔵資料は西淀川公害訴訟の裁判記録、西淀川公害患者と家族の会の事務局資料、大阪から公害をなくす会事務所資料、患者さんの個人記録など多岐にわたっています。これらの資料を活用してもらおうと、資料館オープンに向けて最初に取り組んだのが資料閲覧体制の整備です。2004年11月から現行の西淀川地域資料室を週1回、毎週金曜日を開館日と定め、人員配置をして資料の出入やレファレンスができる体制を整えました。体制を整えたとたん、資料室に人が押しかけて困った...とはいきませんが、ホームページや知人・先生・区役所からの紹介などをきっかけに来室される方がちらほらと増えてきました。利用者は卒業論文・修士論文・博士論文などを抱えている大学生・大学院生たちが大部分で、授業の材料を集めるために来られた先生方などもいらっしやいます。こちらがどれだけの情報提供できるかが満足度にかかわっているため、いつも対応にドキドキしています。

展示でアピール

利用者の来室を待つという待ちの姿勢

だけではなく、所蔵資料をわかりやすく紹介する展示という方法に2005年はチャレンジしました。5月に資料館オープン企画パート1「写真と映像で見る西淀川地域と人びと」、8月に企画パート2「夏休みワクワク資料室 大野川緑陰道路であそぼう」と2回の展示を行いました。

パート1ではおそろ財団が所蔵している写真だけではなく、地域の人から写真を借りて展示を構成しました。

国道2号線を走っていた路面電車や、溝口歯車工場、野里住吉神社の写真など、西淀川の多彩な表情を紹介する展示となりました。映像を見る会では、溝口家の方々が撮影された昭和初期の映像や、西淀川が舞台の映画「娘たちは風にむかって」などを上映し、工場のまち西淀川ならではの映像を知るきっかけとなりました。(写真下)

パート2では、子どもにも理解してもらおうと、展示とクイズラリーを組み合わせて大野川の歴史を展示しました。大野川は江戸時代に農民が開削した農業用水である中島大水道と合流した河川で、西淀川の農業・工業の発展に重要な役割を持っていましたが、高度成長期に廃水とゴミで汚れてしまい公害源となっていました。公害対策として埋め立てられ、道路建設が計画されますが、住民の反対で歩行者・自転



写真と映像で見る西淀川地域と人びと展(2005年5月)

車専用の緑陰道路となり、現在は西淀川のシンボリックな場所になっています。

一階の壁面に展示を張り巡らせ、通りがかりの人に興味を持ってもらおうと策をねりました。歴史というテーマは子どもには少し難しいようで、途中でクイズがイヤになってしまいうもおり、子どもが理解できるのはどのレベルか?という見極めは難しいと頭を抱えてしまいました。それでも大野川の歴史、大野川緑陰道路ものがたりパネルは大人には好評で、企画展後に行われた巡回展りそな銀行歌島橋支店や、きんき環境館、西淀川図書館、西淀川高等学校文化祭で大活躍でした。

愛称を募集しています

広報紙「資料館だより」の発行にも取り組みました。広報紙は先取りして「資料

西淀川・公害と環境資料館オープン記念シンポジウム

環境再生の時代に公害経験から学ぶ

～ 公害・環境問題資料の保存と活用にむけて～

日時 2006年3月18日(土)14:00～17:00

場所 エルモ西淀川(阪神西大阪線「福」駅より徒歩5分)

主催 財団法人公害地域再生センター

共催 日本環境会議、全国公害弁護団連絡会議、全国公害患者の会連合会

資料館オープンを記念して、西淀川で環境再生と公害資料の保存と活用を考えるシンポジウムを開催します。2003年に四日市で「シンポジウム公害・環境問題資料の保存・活用ネットワークをめざして」を開催しましたが、その後どうなったかを確認する場になりたいと思っています。シンポジウムの目的として、環境再生の時代における公害経験伝承の意味、公害経験を伝える中で原資料の位置づけ、資料保存の困難をネットワークにより打開する、を掲げています。

シンポジウムの中で各地の事例報告では、公害・環境問題資料を扱っている団体として四日市公害を記録する会の澤井余志郎氏やイタイイタイ病の清流会館、新潟水俣病資料館、地域史をふまえた資料館活動を展開している団体として神戸深江生活文化史料館の報告を予定しています。それぞれの状況や課題を出し合って共有し、公害・環境問題資料の保存や活用にむけて前進できる契機となればと考えています。皆様のご参加をお待ちしております。

館」となっています。活動報告から所蔵資料の紹介などを書いた、A4一枚の「ピンク色」のチラシです。これまで第4号を発行し、各地で広報してきました。資料館の話をするときにサツと差し出すと写真つきで説明でき大変便利で、これをきっかけに新聞から取材を受けるということもありました。

資料館の愛称募集もあります。学者・学芸員・学校関係者・地域の人と一緒に資料館の今後を考える懇談会を開催していますが、その中で資料館の正式名称を「西淀川・公害と環境資料館」と決めました。懇談会での意見で資料館オープンを広く知ってもらい、市民参加になる方法をといつことで、愛称募集を行うことになりました。2月末日まで募集しています。皆さまからの応募もお待ちしております。

2005年は広報一年生

資料館オープン前年の活動はずばり「広報」だったといえるかと思えます。当たり前前のことですが、こちらが理解していないと人には伝わりません。こちらのメッセージが、どれだけ人の心を動かし、参加までつなげることができるかは、メッセージを練らなければならないし、参加のシステムを作るなど、工夫が必要だと感じました。2005年はいろいろなことに取り組みましたが、経験をつんだことと共に、課題が見えたことが今年の成果かもしれませぬ。資料館は公害地域再生のストーリー作りの重要な役目を担っています。この課題を乗り越えることが、公害地域再生につながると思っています。

(林 美帆・あおぞら財団研究員)

あおぞら財団 西淀川地域資料館

資料館 だより

「大型河川環境再生拠点」のシンポジウム
西淀川環境再生センター
2005年11月4日～12月27日

資料館オープン・プレオープン 2005年11月4日(土)～11月5日(日)

「西淀川環境再生拠点」のシンポジウム
西淀川環境再生センター
2005年11月4日～12月27日



大阪人権博物館リニューアルオープン

西淀川公害の被害を当事者が語る

西淀川公害のコーナーが常設に

「学芸員の人たちが親切」

岡崎 久女

(西淀川公害患者と家族の会会員)

明るくて、見やすくなったよねえ。もう一回行って、今度は時間をかけてゆっくり回るつもり。それに博物館の学芸員の人たちがみんな親切でよかった。ぜひ、ほかの人にも行ってほしい。こないだは息子に紹介したところ。公害患者さんの中でもとくに年配の人には早く見てほしいな。(談)

大阪人権博物館(リバティおおさか・大阪市浪速区)は開館20周年にあわせて12月4日、リニューアルオープンしました。同館学芸員の吉村智博氏から、リニューアルにもなつて西淀川公害の被害者のコーナーが新たに常設されるという話があり、第1回目のワーキング会議を開催したのが2002年でした。それからは何度も何度も吉村氏がおおさか財団に足を運び、西淀川公害患者と家族の会のメンバーと相談しながら、展示資料の選定やビデオ撮影などを進めていきました。患者や弁護士、運動にかかわってきた人たちから当財団が寄贈を受けてきた貴重な資料の数々が、リバティおおさかの展示に使用され、これからは何百人、何千人、何万人もの人たちの目に触れることになるわけです。

当事者の言葉で

準備の段階で驚いたのは、当事者(=差別を受けている人)が展示の解説を書く、ないしは学芸員が当事者から聞き取りした

内容をそのままの形でまとめる、というやり方でした。「展示の解説というのは館の学芸員が書くのが一般的だが、そうではなく、当事者の言葉で伝えたい」と吉村氏。では、このパネル展示の解説はこの人に、写真の解説はあの人に」という作業がはじまりました。

オープン初日は冷たい雨が降る中、大勢の来館者が入り口が開くのを今か今かと長い列を作つて待つていました。リニューアルされたあたらしい展示は、「私が向きあう日本社会の差別と人権」をテーマに、「人権の現在」「私の価値観と差別」「差別を受けている人の主張と活動」「私にとつての差別と人権」の4つのコーナーから構成されています。西淀川公害を取り上げた「公害被害者」の展示は、在日コリアン、ウチナンチュ、HIV感染者、ハンセン病回復者、被差別部落などを扱ったコーナーのところにあります。コーナーでは、差別・人権問題にかかわってきた人たちの語りや収められた映像が30本用意されており、このうちの一本に、おおさか財団の森脇君雄理事長の映像があります。

壁面にかかる大型写真パネルを前にし

地域資料活用のための情報ネットワークを「考える」拡大研究会開催

地域資料の保存と活用をめぐる現状や課題について情報共有し、打開策について議論しよう、関西地域において歴史資料の保存や活用に取り組んでいる公私の団体と歴史学会などが共同して、今から2年前「シンポジウム 地域資料の保存と活用を考える」を開催しました。その後は「地域資料シンポジウム実行委員会」として、準備研究会やシンポジウムを重ねてきました。(実行委員会構成メンバー…大阪歴史科学協議会、大阪歴史学会、おおさか財団、NPO法人西山外三記念すまい・まちづくり文庫、歴史資料ネットワーク)

地域資料に関する情報提供のためのネットワークをウェブサイトで立ち上げようという実行委員会からの提言を具体化するため、12月10日に国文学研究資料館(東京)の安藤正人氏をゲストに迎えて拡大研究会を開催し、40人の参加者が集まりました。安藤氏からは地域を構成するさまざまな団体や個人の記録遺産である地域資料の多様な情報価値に目を広げること、草の根図書館を基盤にした「地域アーカイブズ・ネットワーク」



展示室のビデオに見入る西淀川高校の生徒（2005年12月15日）

展示資料から

大阪人権博物館（リパティおおさか）
大阪市浪速区浪速西3-6-36
(TEL:06-6561-5891) JR環状線
「芦原橋」駅下車南へ約600m

この親子のやりとりが聞こえてきました。
子ども「あれ、戦争の煙や？」
父「ちやうよ。工場の煙やで」
それは、1960年代の西淀川地域の
様子を空から撮影した写真で、一面が煙で
覆われて地上の様子がほとんど見えませ
ん。

きつと、これからも展示品の前では、
さまざまな会話や感情が生まれていくのだ
と思います。ぜひ、みなさん
も訪れてみてはいかがでしょうか？

（鎗山善理子・あおぞら財団
研究員）



『公害 児童文集』1、2
大阪市立大和田小学校、
1971年。（谷智恵子弁
護士資料No.77、82）
1～6年生が公害につい
て書いた文集。大和田小
学校は昭和44年、45年
度と公害対策研究指定校
だった。



姫島病院の前で診察の順番を待つ人びと、1978年7月。
(西淀川公害訴訟弁護団資料No.4722)

「ほんまに見やすくなつたね」
（西淀川公害患者と家族の会会長）
荒井 敏明
オープン初日の午後に行ってきた
おやけどリリニューアル前と比べたら、
そりゃあもう格段に見やすくなって
よかつたよ。照明はいいし、スペース
が十分にとられてるし、順路にそつ
て展示を自然に見てくれた。

（談）



1960年代の煤煙の西淀川地区。大阪製鋼（現：合同製鉄）
と淀川製鋼（西淀川公害訴訟弁護団資料No.7308）
大阪管区气象台が撮影。裁判で証拠に使用された。

「シンポジウム地域資料の保存と活用

構築などについて報告があり
ました。
ウェブサイトを使ったネッ
トワーク化については、「現
物資料の所在と活用の仕方を
広く発信するための媒体にな
ればと考えます」といった意
見が会場から寄せられました。
あおぞら財団の所蔵資料
がさまざまな地域資料とのネ
ットワークによって多様な価
値が見出されていく、そんな
活動へと発展していけるよう
今後も当財団では「地域資料
シンポ」の活動に参画してい
きますので、どうぞよろしく
お願いいたします。

（鎗山善理子・あおぞら財
団研究員）

昨年12月頃から息子は週に2、3回近所の保育園に通っていました。今年9月からは大学構内にある保育園（UEA保育園）に毎日通うようになりました。イギリスでは、2歳までは子ども3名に少なくとも1名の割合で保育士が割り当てられるので、きめの細かい世話をしてもらっています。息子も毎日楽しらしく、毎朝でかける時間になるととても外に出たがります。

イギリスでは、人間として自立させることを保育の最優先課題とするようです。UE



イギリス保育園事情

A保育園のパンフレットには、「自分は何がしたいのか、どのような方法で行いたいかを自分で判断できる人格に育てること」、「多文化を尊重する人格に育てること」が保育園の方針に書かれており、とても感動しました。

個人の意思が最大限尊重されるイギリスでは、UEA保育園に限らず、保護者の同意を求められることが非常に多いのも驚きです。「肉をやっていいか」「魚をやっていいか」からはじまって、「写真をとっていいか」「外に連れ出してだしていいか」等々、細かいことまで一つ一つ書面で聞かれました。もちろん、これらのどれにNOをつけても構いません。私たちはそれほどこだわらないので、全てYESと答えましたが、いつでもNOといえる安心感はずばらしいです。オムツやお尻拭きの種類まで親が自由に決められるのにも驚きました。日本の保育園は、親ではなく保育園の方針が全面にでているような印象は私にはもっていません。イギリスの保育環境はこれとは全

く正反対です。

保育料は日本よりも高いのですが、納税者であればChild Benefit等が得られ、かなり楽に子どもを預けられます。また大学にある保育園は、学生であれば大きく割引されます。妻が3カ月間だけ学生となったため、私たちも割引を申し込んだところ、家計所得が一般学生に比べて高いにも関わらず半額になりました。私たちの割引は、これでも割引率が最も悪いものです。大学内に保育園が整備され、保育料も大幅に減額されているイギリスでは、子どもを持つ学生も不自由なく勉学・研究に励むことができるようになっていでしょう。日本の大学も、ぜひ学生・教職員用の保育園を設置すべきです。

少しだけイギリスの保育園に問題なのは、子どもの意思を尊重するため、「子どもに嫌いな食事を強要しない」ことが賞かれていることです。それはそれでいいのですが、どうやら息子は保育園で好きなものを山ほど食べているようで、夕飯をあまり

たべなくなっていました。イギリスでは、日本人からみれば信じられないようなものを子どもにも与えていたりするので、ちょっと心配ではあります。（おおしま けんいち・立命館大学 助教授）



息子が通うUEA保育園

西淀川公害裁判における企業和解の意義 (2)

豊田 誠

画期的な歴史の転換点

西淀川が昭和53（1978）年に公害裁判を提訴しました。主として慰謝料の問

題。そして地域の再生、再び公害を繰り返すなということを裁判のスローガンに掲げて戦い続けてきました。そのことが、結局は企業を圧倒してこの10年前の10社との間

の企業和解を成立させるにいたりしました。この企業和解の持つ意味をもつ少し掘り下げて考えてみますと、それは公害健康被害補償法ではまかないきれなかった不十分なところを、企業に直接補償させたという点ももちろんですけれども、それに留まらずにこのあおぞら財団の基礎になった環境再生の資金を、企業側に出させることができた、このことはものすごく重要な意味を持つわけでありです。それまで日本の四大公害訴訟で相次いで勝ってきました。



しかし、西淀川の10年前の企業和解は単に勝つだけではなくて、地域再生にまで企業に補償させるといふその道筋を開いたという点では、日本の公害裁判の中では画期的な歴史の転換点だったのではないかとはいふに思えます。

被害者による環境再生の取り組み

裁判で勝ったあと環境をどう元へ戻すのか、被害者の補償はもちろんのこと、公害をなくして環境を元へ戻すにはどうするのかということでも四大公害裁判以来ずっと苦労してきました。苦労して取り組みをし続けてきていますけれども、まだ四大公害訴訟のところでは道半ばです。

現に水俣病問題はまだ解決していません。

西淀川では大気汚染の問題で財団ができて、青い空を子供たちに手渡したい、その願いで今皆さんが動き始めております。これもまだ完全に完成したわけではないけれども、この歩み

は間違いなく子々孫々に対する残していく遺産として、非常に価値のあるものになっているのだという具合に思えます。

そういう意味では西淀川の企業10社との間の和解、これはいわば、日本の公害裁判ではこれまで見られな

かった、非常に大きな転換点になっていきます。そして、被害の補償と公害の防止、そのことを求めてきた被害者の要求に直接的にこたえて、青い空を取り戻すために街づくりをもつて一度やり直す、そういう運動がこの10年前からはじまっているのだという具合に思えます。

世界に例のない事業

しかもこれは、本当は行政がやらなければならぬ仕事です。だけれども行政に任せておいたのでは、いつまでたってもできっこない、このことはすでに証明済みです。そこで、被害者が主人公になって、中心になっているんな意見を言い、そして行政を動かして環境を元へ戻していく、そういう取り組みとして、我が国の公害のいわば転換点になったという具合に言っていると思います。

公害健康被害補償法という法律、これも世界では例がありません。だけれども西淀川のあおぞら財団のような、こつこつ住民が主体となって、企業から金を取って、住民が主体になって行政を動かして、地域を公害のない街に再生していくというこの動きも、おそらく世界に例のない事業だろうという具合に思えます。

若者の参加に感動

私はさっき、この集会が始まるまでの間にペロタクシーに試乗して記念乗車券をもらいました。ペロタクシーのこともさることながら、私はあの広場に若い人たちがいっぱい集まっているということに、非常に感動しました。若い人たちに環境を保全

するそういう手伝い、運動、共闘、そういうものがずっと広がってきていることを私は痛切に感じました。これはすばらしいことだなという具合に思いました。(写真)

大気汚染の問題はまだこれから東京の大気訴訟で自動車の責任をどう問うかという大きな課題が残っています。そしてこれが、きちんと責任をとらせることができたときに初めて、産業公害だけではなくて、自動車公害の対策の国に迫っていくことができるのだという具合に思っております。

日本の大気汚染をなくす

そういう意味では、大気汚染の問題はまだ道半ばですけれども、西淀川で前進してこられた皆さんのこの運動の力が、東京でさらに大きな前進を勝ち取らせて、本当に日本から大気汚染をなくす、そういう運動にさらにつなげていっていただきたいという具合に思います。

患者の皆さん毎日大変だろうと思えます。これは要するに治療薬や根本的な治療ができないだけに、皆さんの苦しみは大変だと思えます。しかし、皆さんが闘ってこられたこの崇高な精神、崇高な気持ち、切実な気持ち、これは西淀川をこえていまや全国に広まっています。お体を大事にして今後もひとつ全国の先頭になって戦ってくださることを心からお願ひ申し上げます。つたない私の講演ですけれども、これを終わらせていただくということにいたします。ありがとうございました。

(とよた・まこと 弁護士)

ほっと ニュース

エコドライブ進行中

中小運送事業者へのデジタコの組織的導入によるエコドライブ推進運動が進行中です。あおぞら財団が(社)大阪府トラック協会、河北支部、矢崎操業と共同して実施する、NEDO技術開発機構の補助金による、デジタココグラフを活用したエコドライブ推進事業には、39事業所・315台のトラックが参加。年間400klの原油を削減しようというものです。

10月から取り付けが始まったデジタコは、すでに200台を超えるトラックに装着。デジタコの音声指導によるエコドライブが始まった事業所もあります。いよいよ、事業所とドライバーのみなさんの協力のもと、

と、データの収集・分析の作業が始まりました。

デジタコを使ったエコドライブは、省エネと地球温暖化防止、燃費向上、安全運転、運転技術の向上に貢献します。財団では、環境省の委託で3年前からデジタコなどのエコドライブ支援機器を使った大気汚染防止・省エネ運転の社会実験に取り組み、成果を蓄積しましたが、今回の「組織的導入」へとつながりました。

また、この事業による成果や課題の把握、評価をするために河北地域エコドライブ推進研究会(座長・新田保次大阪大学教授)による調査研究を重ねています。研究会には、参加事業者をはじめ行政関係者や市民も加わって事業の成果を共有することにも、これからの進め方について自由に議論しています。研究会には誰でも参加できますので、ぜひお越し下さい。

第3回河北地域エコドライブ推進研究会

日時 1月26日(木)午後2時～4時

場所 ホテル日航茨木

エコドライブ推進シンポジウム

日時 2月20日(月)午後1時半～

場所 大阪府トラック総合会館

ブログ開設のご案内

あおぞら財団では、このたびブログを開設しました。

<http://aozorabsw.exblog.jp/>

ブログでは、イベントや事務局の日常など日々の情報を掲載しています。

コメントもお待ちしております!

ホームページのトップページからも閲覧できます。

<http://www.aozora.or.jp/>

リレーエッセー

自民党が郵政法案に反対した候補の選挙区に、別の公認候補を立てたことを、誰かが「刺客」とか「くの一」とか言って、マスコミが面白がりました。しかし刺客というのは「暗殺者」の意味で、本来は劣勢な側が強い勢力に対してとる手段でした。だからこそ「刺客」の側に悲壮感が漂い、物語になります。

高校生のころ蕪村の、
易水にねぶか流るる寒さ
かな

という俳句を習いました(今でも何のことやら良くわからない)。蕪村の頃の知識人はみな易水を知っていたわけです。それは燕の太子に頼まれて単身、始皇帝暗殺に向かう荊軻が、易水を渡って出発する場面です。風、蕭蕭として易水寒し、壮士ひとたび去つて復た還えらさず。

という、まことにカッコ

良い、網走番外地の高倉健のような話です。

始皇帝暗殺譚はたびたび映画になり、2002年の中国映画「英雄」もその一つで、ジェット・リーが刺客役を演じましたね。

刺客

大和政権が小唯命に九州勢力の熊襲タケルを暗殺させた(小唯は彼からヤマトタケルの称号を貰う)伝説もやはり九州に対して大和がまだ劣勢だったからだと思います。

福本 富男

単身敵地へ乗り込み、生きては帰れない使命を果たそうとする刺客の物語は、成否にかかわらずやはり英雄物語になります。民主的に話し合つて解決しました、という眠たい話ではヒット作にはならないでしょう。

悲劇的な行動に対して喝采をおくる人々の心情はいつたいどこから来るのでしょうか。強国アメリカに立ち向かう異国のテロリストたちもひょっとして悲壮な英雄になつていけるのでは。人の脳の内は計り知れない闇です。

60年前に勝てない戦に向かつた若者たちの物語も、描きよつて人を感動させてしまいます。英雄は物語の世界だけ、皆あかんたれというのが、平和な世界である証拠なのです。

(ふくもと・とみお 弁護士、財団 監事)

- 3日(月) 拡大事務局会議
- 4日(火) きんき環境館で「大野川緑陰道路物語」展示(～14日まで)
西淀川高校大気汚染観測
- 5日(水) 10周年実行委員会
- 6日(木) 北奈まちづくり委員会
- 7日(金) 西淀川「交通と環境を考える会～エコドライブ推進のために～」
西淀川高校大気汚染観測の測定
- 10日(月) 西淀川公害裁判 企業和解とあおぞら財団設立10周年記念のついで
道路環境市民塾「チャリンコ祭り」
- 11日(火) 事務局会議
- 13日(木) てづくりせっけん教室
地域資料シンポ実行委員会
地域資料シンポ第6回準備研究会
NEDOエコドライブ事業者説明会
第52回西淀川道路環境対策検討会
- 14日(金) NEDOエコドライブ事業者説明会
徳島環境リーダー養成講座(講師:藤江)
新潟水俣病資料館訪問
- 15日(土) 新潟水俣病現地調査(参加)
- 18日(火) 第26回西淀川地域研究会
事務局会議
- 19日(水) MBC韓国文化放送取材
- 22日(土) 西淀川公害患者と家族の会第34回定期総会(参加)
- 24日(月) 第2回資料館運営懇談会
- 25日(火) 事務局会議
- 27日(木) 公害認定患者に対する環境保健活動の効果測定に関する調査研究
概況把握対面調査(～29日)
中央環境審議会大気環境部会「自動車排出ガス総合対策小委員会」
ヒアリング(意見発表:藤江)
心をひとつに勝利判決を「東京大気汚染公害裁判10.28決起集会」(参加)
- 28日(金) 大野川緑陰道路の教材化研究会
- 30日(日) てづくりせっけん教室
- 31日(月) 第34回西淀川公害に関する学習プログラム作成研究会

10月

事務局日誌

11月

- 1日(火) 事務局会議
「大野川緑陰道路のいま・むかし」展(場所:西淀川図書館、～12/27)
- 3日(木) 道路環境市民塾第5回講座
公害認定患者に対する環境保健活動の効果測定に関する調査研究検討会
- 7日(月) 拡大事務局会議
- 8日(火) 広報会議
- 10日(木) 物流環境管理士養成講座(講師:藤江)
- 12日(土) 西淀川高校文化祭(参加)
- 13日(日) シンポジウム「地球温暖化防止と道路交通 CO₂削減関西からの再発信」(参加)
- 14日(月) 第8回資料館事務局会議
- 15日(火) 事務局会議
- 16日(水) NEDOデジタコ活用講習会
尼崎道路連絡会(参加)
第53回西淀川道路環境対策検討会
- 17日(木) 地域資料シンポ実行委員会
- 18日(金) 佃中学校職場体験受入
環境省職員視察受入
- 19日(土) 矢倉定例探鳥会
西淀川図書館てづくりせっけん教室(講師)
- 21日(月) 事務局会議
- 22日(火) 水中健康回復事業指導者養成講習会
- 24日(木) 第二回河北地域エコドライブ推進研究会
- 27日(日) 買い物から環境と交通を考える集い 川西清和台(参加)
京都大学法学研究科21世紀COEプログラム市民社会研究班主催
「アスベスト訴訟の国際比較」(参加)
- 29日(火) 事務局会議
- 30日(水) 環境教育リーダー研修基礎講座(参加、～12月2日)

お知らせ

寄せ植え教室

(あおぞら財団くじら工房)

「苔玉アレンジと土づくりのお話し」
日時: 2月24日(金) 午前10時～12時

時

「バードゲージで春の寄せ植えつく

り」
日時: 3月17日(金) 午前10時～12時

時

場所: あおぞらビル1Fガレージ

費用: 1回2000円

持ち物: エプロン、軍手、タオル
定員: 10名(要申し込み。3日前まで)

講師: 中谷まささん(グリーンアド

バイザー)

てづくりせっけん教室

(あおぞら財団くじら工房)

「きれいになりましょーヨーグルトせつ

けん」
1回で8個のせっけんが作れます
日時: 3月9日(木) 午前10時～12時

時

場所: あおぞらビルグリーンルーム
費用: 1回2400円(材料費12

00円+受講料1200円)
持ち物: エプロン、ビニール手袋
牛乳パック空き箱(1L用)
定員: 10名(要申し込み。2日前まで)

矢倉海岸定例探鳥会(日本野鳥の

会大阪支部との共催、毎月第3土

曜日開催)

日時: 1月21日(土) 午前9時30分

～12時30分(現地解散)

集合: 阪神電車西大阪線「福」駅改

札口午前9時30分集合
場所: 矢倉緑地公園

お礼

入会ありがとうございました

(2005年10月・11月分 敬称略)
神長唯、門谷充男、堂田悟史、藤岡太
造 吉田雄亮

下記の方々から寄付・寄贈をいただき
ました。(2005年10月・11月)
心から御礼を申し上げます。

愛知県公害患者の会連合会、上田幹枝
尾崎寛真、小田康徳、笠井俊彦、金谷
邦夫、倉敷公害患者死亡調査研究班
沢西義博、東京大気汚染公害裁判原告
団、西口勲、羽柴修、馬場明男、藤野
紘、松岡弘之、山川昭次

【編集後記】

新しい年が始まりました。3年続きの志賀高原は大雪、雨も雪もドカッと降るのは温暖化の影響だそうです。もっと進行すると雪も降らなくなるとか…。そういえば都会で雪を見ることはめっきり少なくなりました。息子と一緒に滑りながらぼんやり先のことをことを考えました。気持ちも体もリフレッシュして年度末に向けた作業開始です。(T)

『Libella』No.88 2006年1月号(隔月1日、年6回発行)

発行所 (財)公害地域再生センター(あおぞら財団)

編集人 上田敏幸

大阪市西淀川区千舟1-1-1 あおぞらビル4階

Tel.06-6475-8885 Fax.06-6478-5885

http://www.aozora.or.jp/

E-Mail webmaster@aozora.or.jp

印刷所 あゆみコーポレーション

定価 一部400円(郵送料込み)

会員の購読料は会費に含まれています。

郵便振替口座 00960-9-124893(加入者名 あおぞら財団)

乱丁・落丁はお取り替えします。本紙掲載記事の無断転載を禁じます。

